

夏になり  
寛文十一年(1671年)七月



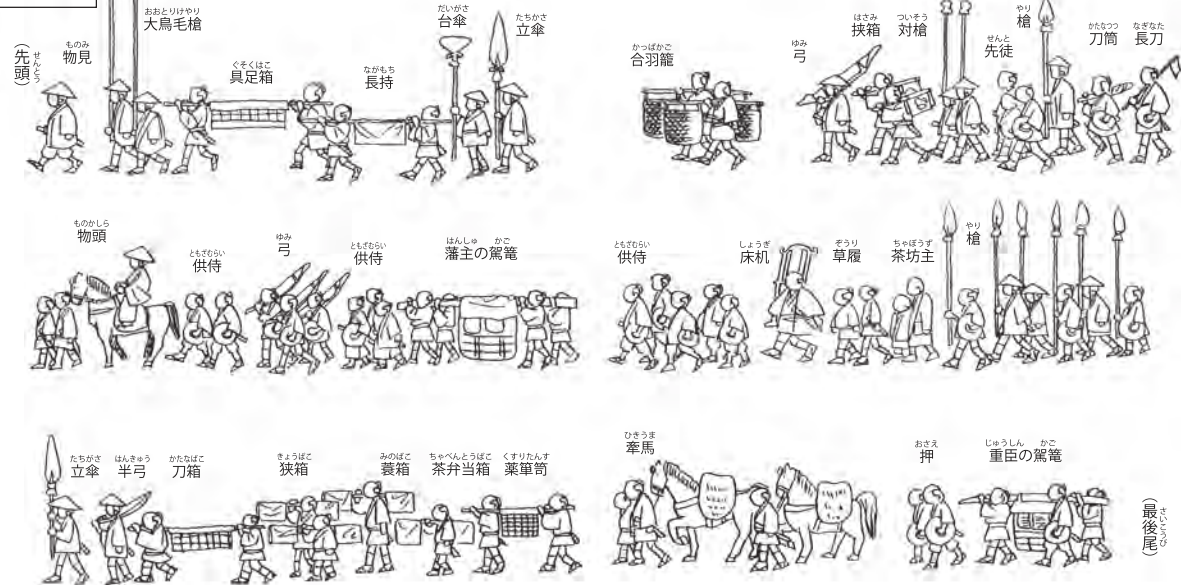
コラム6

参勤交代

大名が毎年4月に自分の領地と江戸を1年交替で行き来するように定めた制度。

江戸と領地を往来する際の大名行列は、各大家の石高や格によってその規模などが定められました。久居藩の行列は当初は100人前後でしたが、幕府からの人数制限に伴い、15代藩主高聴の頃は69人となりました。

大名行列







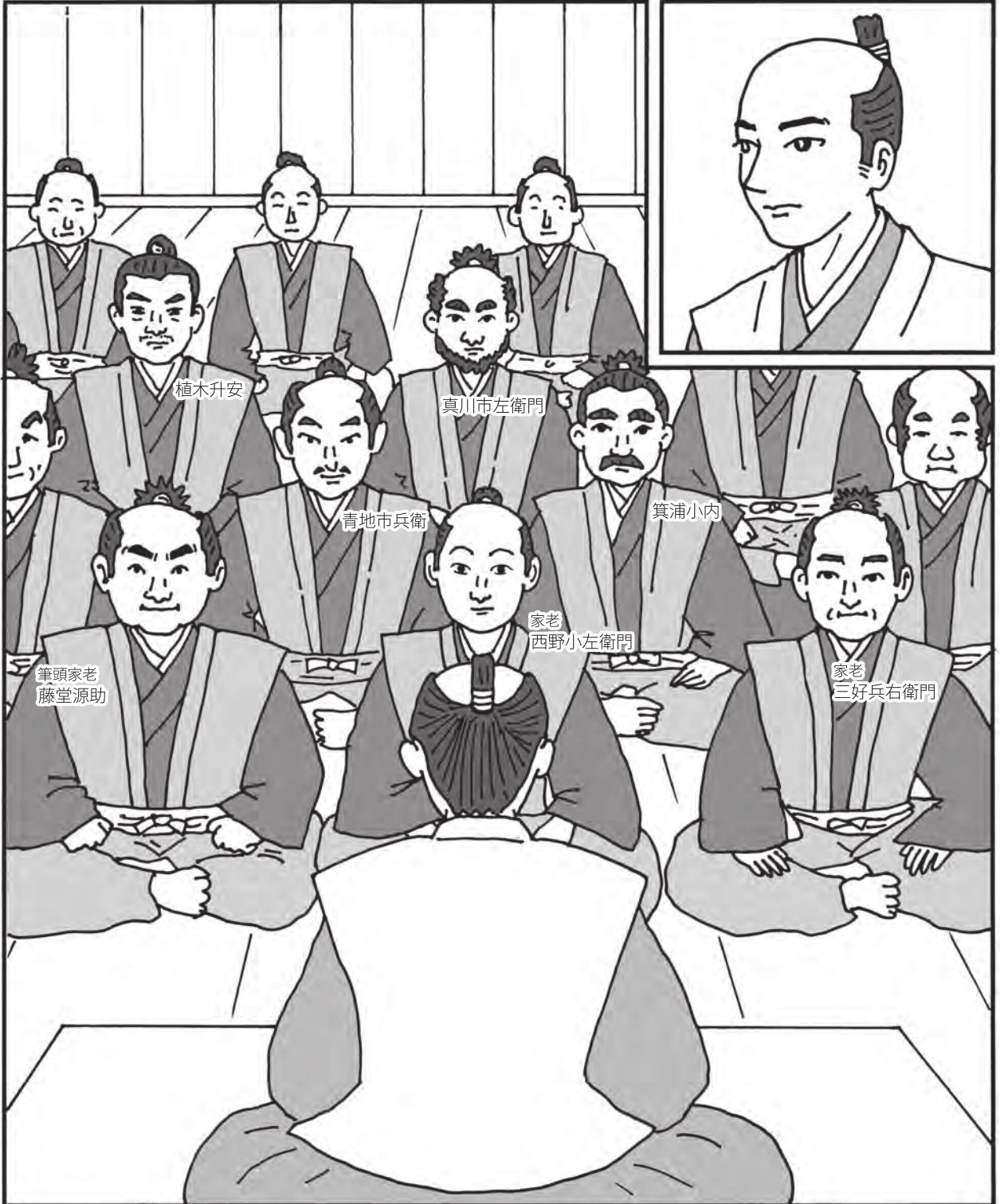
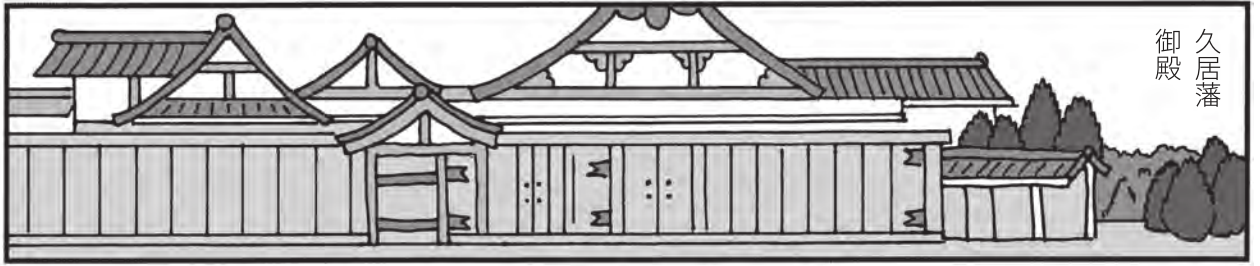
あれは  
やっこさんといって  
イケメンがやるって  
決まってるんよ。

ま、そんな  
ところやね。

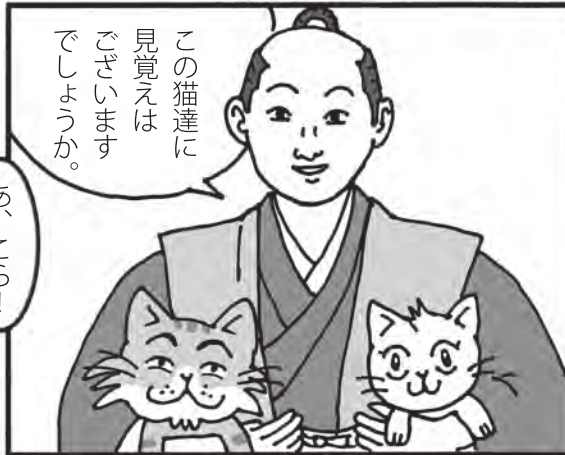
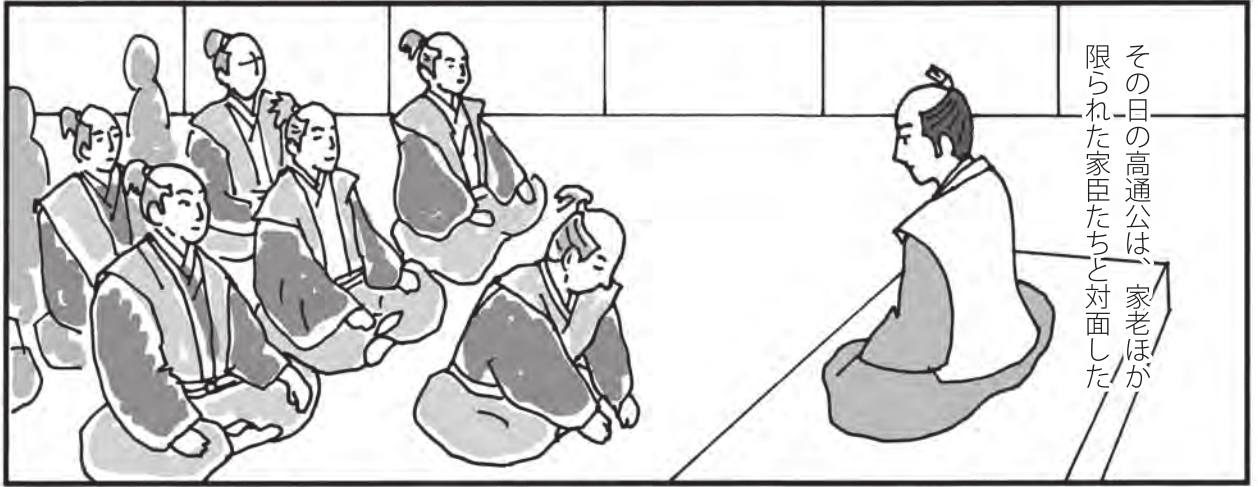
江戸時代の  
アイドル  
やね！

先頭の  
大きな槍を  
持つて声を  
上げてる  
男の人、  
かっこいい  
〜。











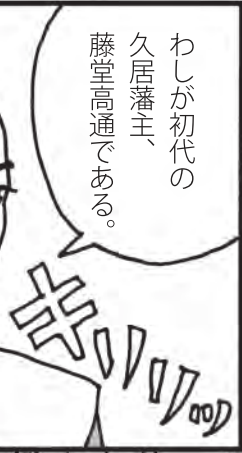
7月23日、  
高通公は  
大広間にて  
家臣一同の  
挨拶を受けた。





ほえー！  
家来の人、  
こんな  
いっぱい  
いるんやね。

家臣一同186人。  
ほら、お殿様の  
立派なこと。



わしが初代の  
久居藩主、  
藤堂高通である。

キッソッソ



支藩設立の  
許可が下りてから  
今日に至るまで、そち達が  
新たな町造りの為に大いに力を  
尽くしてくれた事、嬉しく思う。  
誠に大儀であつた。



まず、  
皆に申しておくが

藩祖高虎公から  
受け継いだ藤堂家を  
絶やさぬよう、支藩として  
本家の津藩を支える事が  
我らの一番の役割である  
ことを、心して欲しい。



わしは  
6歳の頃から  
21年間、ずっと  
江戸住まいで  
あつたが、

こうして、  
このよき地に  
領地を授かつた事、  
祖父高虎公、父高次公に  
深く感謝をしておる。



この新たな地、久居は、  
希望に溢れた場所じゃ。  
この地の発展に  
皆で力を  
尽くそうぞ！



今日は誠に  
良い日で  
あった…。



それにしても、  
ここからの眺めは  
なかなかの  
ものじゃ。

今度、我が師  
北村季吟殿を  
京より招いて  
茶会をするが、  
先生もこの雲出の川が  
ゆったりと流れる  
景色を見て、  
一句詠まれるに  
違いない。



殿、夕餉の  
支度が  
整いました

コラム7

俳人大名  
高通

高通は文学を好み、京都の有名な学者を藩に迎え入れ、教育の基礎を上げました。特に、和歌や俳句に優れ、「任口」と号して名句を数多く残しました。

久居に入府後、最初の正月に久居藩の末永い繁栄を願って詠んだ句

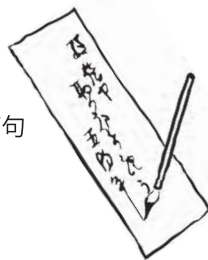
「穂俵や取り初め祝ふ五萬年」

俳人・北村季吟を久居に招いた際に、雲出川で獲れる鮎の美味しさを自慢して詠んだ句

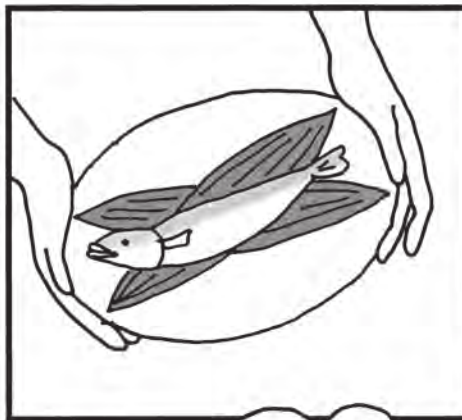
「鮎は何とさか松たけに雲出川」

北村季吟と共に久居を訪れた北村湖春（季吟の子）が、御殿の完成を祝い詠んだ句

「くたら野も今やしら木の殿造」













コラム 8

津藩と久居藩  
藩主系図

